

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
平成 26 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	S2607
代表機関名	大分大学
主担当研究者所属部局	医学部
関連研究分野	消化器内科学
主担当研究者	山岡 吉生
事業名	世界最高峰のヘリコバクター・ピロリ研究を目指す消化器病研究拠点形成

I これまでの事業実施により得られた成果

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

評 点 3
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・計画していた 4 名の派遣に対し、最終的に 300 日以上派遣した者が 3 名（ポスドク 3 名＝827 日、517 日、308 日）となった。 ・計画していた 6 名の招へいに対し、最終的に 4 名の招へいとなった。 ・派遣された若手研究者 3 名は各々派遣先で研究成果を挙げ、筆頭著者として論文を発表し若手育成の効果が認められた。 ・招聘予定者も 6 名より 4 名に減少したが、大分大学・ベイラー医科大学合同ヘリコバクター研究シンポジウムへの参加等で研究ネットワーク強化につながった。 ・このプログラムを通じて国費留学生の獲得等で主研究者の研究室の充実化が窺えるが、大学内の他の研究室からのネットワーク構築への参画が充分でない印象があるため、より幅の広い交流に発展することを期待する。 <p>以上のことから、期待される成果は概ね達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

評 点 4
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者を中心として本邦のピロリ菌研究の中心的存在として活躍し、米国のベイラー医科大学との共同研究を介して世界に先駆ける研究を多数発表している。 ・米国でも NIH の研究費を取得し、日米共著の総説、書籍を出版している。 ・予定した研究目標が 4 つあるが、学会発表を行っているものの論文発表はこれからというもの、論文発表をおこなっているものなど成果は異なる。 ・目標の 2 つについてインドネシア出身の若手研究者が 24 件の驚異的な数の論文を発表しており、若手研究者がインドネシアに帰国後も新たなネットワーク拠点として活躍している。 <p>以上のことから、期待される成果は十分達成していると評価できる。</p>

II 今後の展望

評 点 3
コメント

・ 主担当研究者の研究室とベイラー医科大学との研究交流は、本プログラムの効果もあり今後さらに継続・発展する見込みがある。

・ 大分大学が大きなネットワーク拠点となるには大学内の他分野の参画が必要で、大分大学 DDC(消化器病センター) の設立への努力が期待される。

以上のことから、今後の展望は概ね高く評価できる。

総合的評価

評 点	3
コメント	
<p>・ 交流予定者は減少したが、派遣された若手研究者は成果を挙げ、特に 1 名はピロリ菌の分子疫学研究を行い 24 編の論文を報告し、出身国インドネシアに帰国後も新たなネットワーク拠点として活躍しており、若手育成の効果が認められる。</p> <p>・ 研究については、前述の分子疫学の成果が突出しているが、新しい研究手法の胃オルガナイドの基礎研究も進められている。</p> <p>・ 主担当研究者の研究室とベイラー医科大学との研究交流は、本プログラムの効果もあり、また、米国での研究費の新規獲得を目指して準備を進めていることもあり、今後さらに継続・発展する見込みがある。</p> <p>・ 一方、大きなネットワーク拠点となるには大学内の他分野の参画が必要で、大分大学 DDC の設立への努力が望まれる。</p> <p>以上のことから、総合的に概ね高く評価できる。</p>	

※評点に対する標語は下記の通り。

- 【Ⅰ (1)、(2)】
- 4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない
- 【Ⅱ、総合的評価】
- 4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない